明治四十一年六月廿三日　京城新報　（火曜日）　第七千六百號

京城新報

●新聞紙　第一種　第二種　第三種　第四種　第五種　第六種　第七種　第八種　第九種　第十種　第十一種　第十二種　第十三種　第十四種　第十五種
●廣告料　五行一回金壹拾錢　同二回金壹拾錢　同三回金壹拾錢　同四回金壹拾錢　同五回金壹拾錢　同六回金壹拾錢　同七回金壹拾錢　同八回金壹拾錢　同九回金壹拾錢　同十回金壹拾錢　同十五回金壹拾錢
●除暦　五月廿五日
發行編輯兼印刷人　秋山忠三郎
發行所　京城新報社
京城西署四小門通
電話六六三番

農銀資金充實に就て

母國今期の全國農工銀行大會に於て農工資金充實問題に關し銀行側委員は屢々政府當局者と會見し彼我意見を交換したるが其結果銀行側請求四案の內資本金增加案は來十一月の大會迄双方一層研究を重ぬることに決定し資金融通案及び利率引上案は各自調査書を提出して近々更らに交渉することゝなれるが資金融通に關しては政府は三百萬圓位の範圍にて融通することゝなるべき模樣あり利率引上案に就ても多分銀行側請求通り五厘引上に決定すべく察せらる府縣公金取扱案は當局內部に意見の一致せざる點あれど　先づ銀行側豫期の成効と云ふを得べしされば今期の農銀大會は例年に比し出色の効果を擧げたるものといふべく資金充實の一部目的を達したるを多とせざるべからず然れども吾曹翻つて思ふに充實せられしとする資金は限りあり今後放資の撰擇に細心の注意を拂はずんば數年ならずして又々現狀以上の窮迫を訴ふるに至るべきは疑なき所なり此の如きは獨り母國の農工銀行のみにあらず韓國各地農工銀行にありても均しく研究に値する問題たるなり經驗に富める銀行當局者と質朴なる政府監督者は其邊の心掛に遺漏あるべき筈なかれど所謂千慮の一失弘法も筆の誤　あり吾曹の杞憂に終らば國家の慶事なり

論する迄もなく農工銀行は農工業の進步發達を促がすが爲めに設けられたる特種の金融機關なりされば銀行當局者は深く此目的を服膺して放資の撰擇を怠るべからざることなるが地方は特種事情の繼綿すること多く動もすれば情實に流れて放資の方針を誤るの憂なきを保せず吾曹未だ農工銀行の貸付原簿に就て研究踏査したるにあらざれども其貸付が從來多くは一日巨額のもい多く從つて資金融通の思澤を蒙むるもの少き地方家へ行くのを止さうかと、咄嗟の間に千々に心を碎いたが、何が話さねばならぬ用向あればこそ、態々迎への人を寄越されたのと、行くと云つて歸しながら、若も此まゝ行かなかつたら、常から慈愛深い母は、何事か思ひはせんかと甚麼に心配されてからう、と思う考へたので、恐る〳〵姑の顏を伺ひ、

「では、さうぞ直に踏つて參りますから」

と、情を込め如く云つたが、奈加子は聞くに一般農民に普及均霑せしむるの方針に依らざるべからず素より一縣一農工銀行の薄資にては余り多くを望むべからざるも出來得る丈け如上の方針に準して放資を撰擇せんことを切望せざるを得ず是に於てか吾曹は彼のライフアイゼンの土地同盟組合を作るの必要を感ず其方法組合員は一定の時期一定の掛金をなし集りたる掛金は組合員に限り一定の制限內に於て相當の擔保を取り融通するを得るの制にして一は貯蓄を奬勵し一は農業資金を融通するの作　もう一縣一農工銀行にては一小村落の未迄も其恩澤を蒙ること頗る難事なるが上に我風の如き小組織の農業にありては最も此制度の有益なるを感すること切なり農工銀行の貸付金が長期に亘り固定すべきことは其性質上當然のことに屬す然れども長期といふも程度のあることにて長きは二三十年に亘るべく短きは期年にして回收することを得るものあるべしされば銀行の當局者が事業の性質と緩急とに注意し比較的回收の容易にして農業の發達改良に影響多きものを先きにし猶餘力の存するを見て然る後其次きに及ぶの方針を取らば庶幾くは多少窮迫の狀態に遠かるを得べきか徒らに農業資金の性質に心を弛め事業の性質と緩急との取捨を誤らんか幾回資金の充實を重ぬるとも窮迫の狀態を脫することを能はざるべし

吾曹深く銀行當局者及政府監督者の猛省を望む

小說　新不如歸（四十三）

篠原燈葉著

姑の返辭の爲やうが、如何にも質家へ行くのが不腹らしく渋いたので、まだ尾花家の家風に馴れぬ百合子、殊に姑の氣心の解りかぬる百合子は、ハッと黙して、實を質家へ行くのを止さうかと、咄嗟の間に千々に心を碎いたが、何が話さねばならぬ用向あればこそ、態々迎への人を寄越されたのと、行くと云つて歸しながら、若も此まゝ行かなかつたら、常から慈愛深い母は、何事か思ひはせんかと甚麼に心配されてからう、と思う考へたので、恐る〳〵姑の顏を伺ひ、

「では、さうぞ直に踏つて參りますから」

ないが何がれ氣に障つたか知らぬ世間ぬ、妾の事だから、必然れ氣に入らぬ事があつたい私共女に少し話さ、それなれはそれと教へら」と呼び留めた。

霜月中旬過の日は氷川社頭の森蔭に落ちて薄ら寒い風が所々の庭樹の梢を渡り、落葉が片々と散つて居る夕景色の道を百合子は其愛らしい肩の邊に愁の雲を潜め、姑奈加子の不機嫌を案じつゝ漫に歩むのであつた

「どうして阿母樣は那樣に御機嫌が悪いか知ら、私何にも御機嫌に障るやうな事爲た覺ないけれど……殊に依ると旦那樣が私に隙つたのか知ら……いや〳〵夫婦間の宜しいのは喜んでた下さる理、御氣に障らう理はない、狀況妾の辭見だつたか知ら、けれども彼の時の此の如と云ひ、此の辭の樣子と云ひ奈何思つても辭見とは思へない、して見ると何かれ氣に障つた事があるに相違ない」

と一應して行かうとするのである

「大層お遲くなつですねゝが、此の頃お稽古の私共女に少し話さ、そい事があつたら」と呼び留めた。

「寄つて遊びたいは山々ですが、貴方が不在ちや含しませう、尾花一人では面白くも何ともありませんから、はゝ〳〵」と心ありげに云つて高く笑つた。

百合子は其の無禮な辭に憤とはしたが兒の秘密を知る彼男には怒りもならず、

「此と質家まで參るものですから左樣仰言ずとうを寄つて遊ぶ事ありませ、何、夫禮致しました」

百合子の例の陰のある目をドロリとさせて、足拍は例の陰のある目をドロリとさせて、に微笑むのであつた。

「寄つて遊びたいは山々ですが、貴方がは面白く不在ちや含しませう、尾花一人では面白くも何ともありませんから、はゝ〳〵」と心ありげに云つて高く笑つた。

百合子は其の無禮な辭に憤とはしたが兒の秘密を知る彼男には怒りもならず、

「此と質家まで參るものですから左樣仰言ずとうを寄つて遊ぶ事ありませ、何、夫禮致しました」

……まだ物の二十日にもならない中から、もう阿母樣の御機嫌に入ないやうでは、水の泡、先は奈何すれば可いか知ら……呼ん折角思ひ思つた所へ嫁付いて來れば、這麼苦しい思をせんければならないし、世の中の事は奈何して思ふやうにならないものか知ら恁く呟いて、九條家の正門の前あたりまで來ると突如に

「いや、先刻は失敬しました、何方へ被入やいます。」

百合子は餘念なく姑の事のみ考へつて歩む折からとて、驚いて其人を見れば、誰あらう見るも厭はしき足拍少佐が、あらずとも赭顏を一層赤くして酒氣を匂せながら突立つて居るのであつた、ハッと思ふと早や心臟は亂鼓の鼓動を始めて、軀は自から顫へるのである、けれど百合子は我と我が心を叱して、

「たや、誰方かと存じましたら、足拍さんで被在やいましたか、誠に先刻は失禮致しつた。百合子は起つにも起たれず、姑の嫁に辛しとは豫々聞きながら、さても聞きしに勝つて辛いものと、かゝる冷き情に馴れぬ身の早や涙の差含まるゝを、ヂッと耐へて、漸くに何んとも就かんれ叩頭をして室を出たが其時はもう涙はほろ〳〵と落ちるのであつたが、若誰かに見付られでも爲ては、密と袖に拭ふて、其まゝ自分の室に入り、手早く身繕ひして、氣兼する身の車にも乘らず、女中をも連ずして尾花家を出

▲京城醫師案內▼

京城西小門通り
京城醫院分院
院長　菅恒

黴毒　潰瘍皮下注射療法　包莖無痛手術
京城南大門通一丁目日の出旅館に
戶田病院　內外科　婦人科　眼科　小兒科

明治町一丁目（本町座前）
眼科內外科　松岡醫院
入院隨意

見習看護婦募集す希望者は本人來談あれ
新皇城
日韓病院
大漢門前

內科
外科
婦人科
入院隨意
京城南山町二丁目
植村病院
（電話三三〇）

入院隨意
京城壽町三丁目（元阪井病院跡）
高井醫院
（電話二二六番）
院長　陸軍三等軍醫正　高井貞治

病室新築入院隨意
內科　小兒科　花柳病
眼科、外科、婦人科
京城壽町三丁目
清水材木店跡
院主　醫學得業士　中島貞信
中島醫院

入院隨意
京城旭町三丁目
十全病院
電話七三七番

入院隨意各科診療
共立病院
京城本町二丁目

入內外科　京城旭町一丁目
小兒科　安東病院
產科　電話九一三
花柳病　院長　安東貞一郎
隨時

法の上に眠る者は法律之を保護せず苟も法の擁護に依り權利の伸張を圖らんとする日韓人士は學識經驗兼備の斯業專門家に依囑して其實行を確保せられよ

營業要目
一、民刑商事非訟事件の鑑定
一、同上事件に關する書類の作成
一、登記申請證明查證願に關する書類の作成
一、會社銀行組合の定款契約書類の立案
一、鑛山土地家屋の製圖測量
一、債權の取立讓受紛議の仲裁
個人團體法人の法律顧問
明治大學出身
增本好三郎事務所
京城本町壹丁目（電話六二四番）

夏物和洋硝子食器洋燈類卸小賣
大阪東區南本町四丁目
駒井商店特約販賣
京城硝子製造所販賣部
京城本町三丁目
林豐商店
京城南大門通り三丁目
林豐商店支店

ミシンガンシ
月賦販賣及賃貸、一時拂は更に低減
使用法無料出張教授
京城西小門內
ミシンガン裁縫機械會社

カルヽス溫泉開業御披露
今般龍山新市街地に於て土地高燥風景佳絕にして交通便利なる漢江通りに地を卜し茲にカルヽス泉を流出し溫泉場を新築開業仕り候娛樂的設備として階上に御休憩場を設け湯茶新聞雜誌碁將棋等を備へ付け他にコーヒー店の設備等を爲し叮嚀親切に御待遇申上且三階建勝場よりは龍山新舊兩市街を眼下に見下し遙に京城全市街を目前に望見し春色雪景の眺望は勿論夏期は樓上涼風に炎暑を忘るゝの好溫泉場に御座候間何卒開業當日より陸續御入湯被下度偏に奉願候
追而今廿三日開業仕候間向三日間は入浴料半額に可致候
龍山漢江通三丁目十三號地
カルヽス溫泉

◉蓄音器　各種　嶺新音盤　各種　新荷着　東京三光堂　蓄音器韓國總代理店　京城本町　辻屋　本店電　二四八　支店電　三六六

東城新報

東洋拓植役員撰任

區々たる感情及び或る嫌惡なる政事の爲に久しく行悩めり之間く東洋拓植會社も大勢の爲には之を遮斷すること能はずして遠からず創立せらるゝ形勢を現はせり、帝國の大陸政策に於て滿洲と相俟て韓國拓殖の大經營をなさゞる可らざる既に余輩の屢々說ける所なり、輓近其成立難を聞けるよゝ其否を論難して警告を與へたりき、然るに機運は當局者を促して創立の急を感せしむ、余輩は或る一派が其否を覺りて創立の機運を遠ならしめたるを歡喜するものなり。而して余輩の聞得たる所に依れば、曾彌副統監は西園寺首相、松田藏相、松岡農相等と相會して創立の順序、委員の撰任に就て凝議し粗ぼ纏りたりと、創立委員長及總裁の撰任に就ては未だ確たることを知る能はずと雖も、宇佐川中將の總裁は略ぼ確定せるが如き說あり、中將が陸軍に於ける韓國通のオーソリテーなることは世て余輩の述べたるが如し、中將の總裁たることに於ては余輩素より異議を有せざるなり、總裁に恰當の人物を要することは言ふ迄もなし、創立委員長及び總裁を補佐して實際に活動して能く誤りなからしむる創立委員及び役員の撰任も亦忽にす可らず、聞く當局者に於ても茲に注意する所ありて、韓國在留邦人實業家有志家中よりも撰拔するの議あり、當局者にして事實茲に想到して此議ありとせば眞に嘉すべきことにして會社の爲に最も幸なる事とす、若し夫れ統監府施設の如く韓國の事情を知らざる者のみを擧げて創立委員となし役員となし、之に官動せしむるに於ては其經營の失敗は今より豫言するに憚らざるなり、統監政治失敗の原因は何處にありやと云はゞ、韓國の眞相に通せざる爲に起因する所多し、既に統監自身が韓人の眞相を誤り懷柔策を取りて痛く失敗せるの形蹟あるに非ずや、而して幕僚にも之を補佐して誤なからしむる人なし、之れ抑も韓國經營に多年の實驗を有せる士を黜けて何等實驗なきものをして局に當らしめたるが爲ならんか、斯の如きものにして何ぞ統監を補佐して誤なからしむることを得んや、拓殖會社にして誤て在留邦人中の資産經驗ある士を逸し所謂門外漢のみを以てすれば統監府の失敗を繰返すのみ、若し夫れ之等在留邦人中の粹を度外視して事を爲さんとすれば失敗を屢々繰返さゞる可らず、更に眼を轉じて韓人側の撰任に想到せざる可らず、當局者亦深く考る所あるべきも要するに渠等は實際に乏りて何等の効用を爲さゞるべし、唯員に列するのみの人物を撰任することゝすべし、所謂半可通なるものを容れて徒に喘を容れしむるは偶々以て事を紊雜にするのみ、余輩は以上の二點を擧て當局者に深く注意せんとするものなり。

▲在野黨聯合會

昨夜在野黨の聯合會を開けり各派漏れなく參會し總員二百五十名にて加藤政之助氏の挨拶あり更に日を期して民黨の大親睦會を開くことゝなれり

▲拓殖創立委員内定

東洋拓殖會社創立委員長は勝田理財局長同委員には織田一松崎藏之助等と内定せり（以上二十三日）

▲海軍大演習

本年秋十月擧行さるゝ海軍大演習には東郷軍令部長總統監となり天皇陛下には觀艦式にのみ臨幸さる

▲松島艦絶望

齋藤海相は松島沈沒原因調査を了し馬公より歸途に就けり同艦の損傷は重大にして到底引揚の見込なし

▲大岡力氏の送別宴

大岡力氏送別會昨夜芝三緑亭に開かる各新聞記者通信員の外吉原三郎、柴田家門荻原守一、中川產吉、岡崎靜彌、野田卯太郎其他朝野の紳士百名參會し黑岩周六氏送別の辭を述べ大岡氏の答辭あり後志賀重昂氏の韓國談をなし九時散會せり（以上二十一日發）

群山電報

▲漁船難破

本月一八日暴風のため忠淸南道鎭川郡ロタ島及び庇仁郡バリョウ附近沖合に出漁中の漁船難破せし旨急報あり當地警察署より巡査を派遣取調べたるに難破船七、溺死二（内死体一發見）行衛不明漁船二、同漁夫六名り尙搜査中なり（廿一日發）

雜報

●韓國勸業銀行

韓國における金融機關としては第一銀行、十八銀行及び五十八銀行支店等あるも右は普通銀行の業務を營み居るものにて土地および不動産に對する長期の貸附をなさず又韓國農工銀行の各地に設置せられあるも其規模極めて小にして格別の効果なき也を以て不動産を目的とする特種の銀行を設置するの必要ありとて伊藤統監は最初一千萬圓位の資金にて勸業銀行を創立せんとの意見を抱き居りし由なるが其後副統監の意見もあり遂に資本金三百萬圓を以て之を創立するに決し過般來歸京中の副統監は政府と打合中なりしが政府にたいても之に賛同し十八日の閣議にたいて之を決定せし由にて結局各地の農工銀行を合併し三百萬圓迄資本金を募集する事となるべく韓國政府は年六分の利子補給をなす筈尙同銀行は五圓以上の債券を發行するの特權を有するものなりと

●趙農相の訓示

農商工部大臣趙重應氏は昨日午前十一時各道觀察使を農商工部に召集し左の訓示をなしたり

本日茲に各道觀察使諸君を會同して其所信を希望とを陳告する機會を得たるは本大臣の欣榮とする所なり古語に謂はずや恒産なくして能く恒心ある者少し其言尙に然り苟も人に恒心なく家に恒産なくして而も徒に國力の富强を期圖するが如きは得て望むべきにあらず

顧ふに我邦は由來農本國たり將來亦主として力を農業の發達進歩に致すと同時に他の一般商工業の奬勵開發に勗めざる可らず

然るに近古以來我邦に漸く實業を卑視し少しく文字を解する者に至りては擧て徒に官職に奔競し又空論に耽るの弊風を馴致し八域到る處として多數の遊衣徒食者にあらざるなく國本培養の如き復た敢て之を顧みる者なきが爲めに百般實業の廢退をして遂に今日の如く太甚しきものあらしむるに至れり洵に慨歎すべし

任に分憂の重職に在る各觀察使諸君は此の維新の時代に際し兼心の慰安を勉めらるゝは勿論深く之を鑑み之を察し專ら實業の奬勵發達に留意し斯民をして從來の弊風を一變し攀實に各其生業に從事し遍又爾後は通例の報告以外諸君の注意を以て可成各種の意見を迅速に本大臣又は次官宛に提供せられたし

●不換紙幣の發行

伊藤統監には韓國政府財政遣繰の爲不換紙幣發行を思立たれ已に西園寺内閣へ向つても其意志を通せられたりと云ふ

●觀察使へ訓示

觀察使一同及び漢城府尹は昨日午前十一時より農商工部に參集し木内次官一場の訓示演說をなしたり

一二諮問案に就き審議せり明日は内部に參集し同部大臣及び次官より訓示演說ある筈

●一進會の紛亂

一進會は總理大臣李完用の不信任を決議し之に辭職を勸告すべしと去る十一日の評議員會に於て決したるも會長李容九は李完用は今後大に活動すべきを約したりとの旨統監より聞きたりと注意したれば總務局にては從來同會に於て此問題に逢日疑議する所あるも議論百出して何等決する所なく今や大に紛亂を極めつゝあり又た李完用邸に於ては地方より上京せしと稱する決死隊の者等何時辭職勸告に來るかと大に警戒し居り

●國有未墾地處理の概況

農商工部國有未墾地課に於ける事務處理の概況を聞くに本年一月以來六月十五日に至る迄に

一、取扱ひたる文書は
受發送　一千百二十八件
處分　九百五十六件
處分未濟　七百九十六件
七百〇巻件

にして其處分未濟の多き理由は實地調査及び各種の交渉を要する請願多數を占め急速に處分し難きに由ると云ふ又

一、請願數及び面積は
貸付請願數　四百三十件
同上　面積　三萬二千六百八十一町四反一畝廿四歩

にして昨年九月十五日即ち未墾地利用法實施以來の累計は左の如し

貸付請願
七百八十三件
六萬三千三百廿六町五反十五歩

認證請願
七十二件
九千百十六町七反三畝九歩

計
八百五十四件
七萬二千四百四十三町歩二反三畝廿四歩

訓令を發したる數　四百七十三件
右に對する報告濟の數　二百參拾五件

三、地方官に請願地の調査を訓令したる數

四、請願地實地調査數は
調査件數　百七十六件
調査個所數　百六十一ヶ所

にして昨年九月十五日事務開始以來の累計は左の如し但し件數と個所數の一致せざるは競願あるに由る

調査件數　二百四十九件
調査個所　二百四ヶ所

五、許可の豫定を以て實測圖の提出を命じたる數

提出を命じたる數　百十三件
右に對し既に提出したる數　四十一件

六、許可したる數
認證　五件
貸付　四百七十七町六反七十八歩

七、許可の手續中に屬する數
認證　二件
貸付　四百十一町三反八畝十四歩

八、許可以外の處分濟數は
不許可　十一件
貸付　百十四町九反一畝廿一歩

不許可　五件
貸付　百四　九町五反九畝二歩

國有未墾地に非ざるもの　三千六百七十四町
より却下したるもの　四反四畝廿四歩

主管違により他に引繼ぎたるもの　三千二百八十二町九反八畝廿八歩

にして昨年九月十五日以來の累計は如左

不許可　百四十九件
國有未墾地に非ざるため却下したるもの　六十一件
主管違により他に引繼ぎたるもの　三千六百七十四町四反四畝廿四歩

計　八十件
七千七百〇五町六反八畝十二歩

以上の如くにして今回帝室有未墾地を國有に編入せらるゝ事となりたるを以て今後續々出願せらるゝものあるべきも今日迄に出願せられ居るものは本年中に實地調査を了し出來得る丈急速に處分する方針なりと云ふ

●國有未墾地出願者の注意

別項記載の如く未墾地利用に關する出願頗る多數に上れるが出願者中には充分に目的地の調査を遂げずして圖を調製し願書を提出せるものありたるため當局に於て實地調査に着手したる際國有に非ざる事を發見し甚しきは既墾地を草生地として出願せるものあり徒らに手數と經費を煩はすのみにして相互の不利益を招きたるもの少からず殊に實測圖の不完全なるため許可せらるゝものも空しく日子を費す事あり出願者は右の點に注意せざる可らずと當局者は語り居れり又沼澤地の利用を出願せるもの多きも沼澤地の多くは韓民が溜池として利用せるものにして平素は荒廢に歸し居れる觀あるも一旦雨期に及べば溜池と變するものなればこれ等は充分に調査を遂げ全然右の關係なきものに非ざるよりは其の利用を許可するゝ事なきを以て沼澤地の出願は最も注意すべしと云ふ

●仁川市況不振と空家

昨年來數度の大火と市況不振とに依りて仁川港の空屋は日を逐ふて增加し今や三千九百餘に對する約七百の空屋を有するに至れるが開港以來實業に從事せる某氏の談に依れば昨今空屋の多きは世人の等しく首肯する處なるが茲に最も注意すべきは從來に比し本邦人の空屋多きことに目下目拔きの場所と稱せらるゝ本町通公園地通宮町通り等の大買豆商の間に多數の空屋が介在せるは開港以來未曾有の事なりと云ふ今之を比較的精密なりと稱せらるゝ仁川警察署調査の現在戶數並に空屋の數を掲げ所謂全盛時代と稱せらるゝ卅八九年のそとと比較對照すれば左の如し

	住人戶數	空屋
三十八年十二月末	二、八五三	一、八五七
三十九年三月末	二、九八六	三、三五
同　六月末	三、〇八七	三、三八
同　十二月末	三、二五九	三、二八
同　四十年六月末	三、二二二五	一、六四
同　十二月末	三、三三六	四、四二
同　四十一年一月末	三、四九二	五、一〇
同　二月末	三、四九三	五、五一
同　三月末	三、一六一	五、四四
同　四月末	三、一六六	四、九九
同　五月末	三、一〇七	六、八二

●金銀貨地金輸出入高

本月中旬仁川港に於ける金銀貨及び地金の輸出入額は輸出四萬百圓、輸入十萬圓にして五萬九千九百圓の輸入超過なりと

●鐵鑛石輸送增加船

鎭南浦より採掘する鐵鑛石は鎭南浦の回漕業者中村精七郎の一手輸送に係るが同回漕店にては既に滊船佐渡丸、遼浦丸の二隻を借入れて鎭南浦若松行の航路に宛て專ら其輸送に力を盡し尙幾ゝ臨時船を廻して輸送しつゝある由なるが聞く所に由れば去月中約八千噸の輸送をなしたるが尙幾分の不足を感する由にて目下更に滊船一隻借入の交渉中なりと云ふ

●駐韓憲兵補充

曩に增派せられたる憲兵中人員不足に依り又は事故等にて欠員を生じ居りしを以て七月十日より二十日迄の間に憲兵百名の補充を見るべしと

●憲兵補助員將校決定

陸軍騎兵參領朴永吉同步兵正尉金泰兄の兩氏は既に憲兵本部に於て勤務中なるが二十二日を以て左の諸氏左の分隊附補助員將校として決定せり

京城分隊陸軍步兵正尉張宣根天安分隊步兵正尉徐丙德成興分隊砲兵正尉權承穆大邱分隊工兵副尉金領彬平壤分隊步兵參尉李承喬榮山分隊步兵參尉朴東元

●憲兵補助員應募成蹟

憲兵補助員は各憲兵分隊に於て募集の準備中なるが既に京城内のみにても二百名を超過せんとし又京城に遂からざる高陽にても二十名の多きを見其他各地方も好成蹟にて應募者多き樣なり而して京城憲兵分隊に於ては二十三日より身体檢査を行ひ五管器能完全にして且つ体格の壯健に充分勤務に耐ゆる者を撰拔し採用するものなりと因に今回の應募者の大多數は解散兵を以て占め居りと云ふ

●閔宮相の招宴

閔宮相は二十日前宮相及び宮内府日本人官吏奏任官以上、日韓人官吏勅任官及び奏任官課長等約四十名をソンタク邸に招待して新任披露をなせり同日午後七時二十分食堂を開き閔宮相の挨拶に次で李前宮相趙承寧府總監小宮次官笹内離院五十〇卿交々起て卓上演說をなし新大臣の就任に對する祝意と將來の希望とを述べ其の間軍樂隊の吹奏あり十一時散會せり

●長谷川大將の歸京

南韓及平壤地方視察中なりし長谷川軍司令官には本日午後六時四十分の列車にて歸京すべし

●英國提督來韓

英國東洋艦隊司令長官ラムトン中將（ムア中將後任）は一昨日軍艦アランハチー號にて仁川に來着統監には本日晝餐に同中將を招待せられ韓國皇帝には同日午後謁見を賜はることに内定せり同中將は一兩日滯在の筈なりと

●丸山警視總監の内部訪問

丸山警視總監は昨日午後一時内部に宋大臣及び岡次官を訪問せり

●岡次官の登廳

岡内部次官は轉任後昨日初めて内部に登廳し宋大臣と會談の後午後一時より部員一同を集めて新任の挨拶をなし劉衛生局長一同を代表して答辭を述べ終りて宋大臣と共に各局課執務狀況を巡視せり

●露國文豪

來遊中の露國文士ダンチエンコ氏は昨朝出發黑田左久馬氏同行平壤に向へり

●菊地讓氏

東上中なりし長風菊地氏は一昨夜無事歸城せられたり

●若松元山理事官

若松元山理事官は廿日來京巴城館に投宿せり

●共進會出品勸誘

本年九月二十日より十七日附宮内府鑛務官從七位勳八等武田尙兼任統監府通譯官叙高等官六等

公人私人

△磯部照明（正金銀行員）一昨日來京巴城館
△堀江幸市（平壤地方裁判所判事）一昨日歸任
△馬山虎也太（大邱同上）同上
△吉田雄六郎（大邱地方裁判所檢事）同上
△鈴木五七郎（黃州裁判所長）同上
△關口宇（同檢事長）同上
△士井庸太郎（大邱控訴院長）同上
△西平（海州裁判所々長）同上
△元木直一（平壤裁判所長）同上
△勅使河原健之助（公州裁判所長）同上
△永島巖（平壤控訴院長）同上
△向井巖（同檢事長）同上
△兼重次郎（平壤地方裁判所長）同上
△岩田孝慈（公州同上）同上
△岩本以明（成興地方裁判所長）同上
△平石民八（都督府高等法務院長）同上
△荒木貞雄（東京朝日記者）一昨日歸京

●近事片々

▲完用　內閣勳務後一進會の壓迫孤あるも地盤は更に堅確となれりと噂するも疑はし

▲併し　李宋の暗鬪は益々甚し稍もすれば破裂せんとする模樣慥に見ゆ是でも堅固乎

▲宋內　相獨り奮鬪するも多勞に無勢如何に背後彌陀の光と負ふも何となく氣遣はし

▲祖國　の新聞紙に映ずる宋秉畯は隨分豪傑らしく見ゆ實際の人物を知る者は失笑す

▲統監　が宋は栗の實の如し破ければ中々甘味有様と持上るから殊更に豪らそうに見ゆ

▲愛國　志士講習會に金允植及其一派打集ひて何か事か頻に凝議する所ありとは何事乎

▲後樞　內閣の相談なりと風說する成程其出入の人物を見ては此說起るも無理ならじ

▲帝室　財產國庫移屬に就て雜議等今尙囂々として不服を唱ふと困つた沒分曉耳多し

▲巫女　を招て之が復讐を占はしむ巫女亦之に應じて種々放言せりと斷然膺懲すべし

▲西園　寺首相官邸に曾彌松田松岡等相會し財產及東洋拓植に就て頻に凝議する所有

▲此會　合に於て拓植會社創立漸く熟し更に好況に一轉進を見べきの說あり如何

▲勸業　銀行設立は久しく伊公の胸底に存したる處曾禰子の幹旋により愈々運べりと

▲資金　三百萬圓に付韓國政府年六分の保證也と士地抵當の貸付に大に便宜を與ふと

▲宋內　相登廳して內閣に入る可らずと嚴達す

▲宋氏　近來の言動隨分憂ましく嚴乎として訓示する所日人官吏迄が恐縮すとは怖し

▲完用　曾て全北觀察使時代に李根培より數千圓家費として借入れ今に之を返却せず

▲而も　當時完用生計困難の爲に借入たる恩金根培類に催るも兎角不得要領とは忘慮

▲京城　日報社長大岡力士筆法學士原田豐次郎兩氏は廿四五日頃着城の筈なりと云ふ

▲兩氏　着城の上は同紙の面目一新せしむるものあらむと然り良御用紙の光を放たむ

▲米國　大統領の撰擧中原の鹿はレ黨のタフト氏ならむ近時デ黨の落莫は實に可憐也

○土耳古金口煙草GD

京城代理店 歐米雜貨商 京城本町六丁目

茶褐色スポルト 各種

岡野商店

雜報

●允用の寵妾山月（下）

偖も美人山月は閔内廷の寵妾となりて頻に謀署を授けて權勢を張るに余念なく、唯さへ奸黠なる閔は彌が上にも嫉猜なる性質を現はし殺を勝して時期の到來を待ち受けぬされども閔は允用の如く表面の鋭鋒はげしく嫉く計策を成就なして妾の心を休ませ玉へ長き浮世に知かき命の譬へもあるものを、君の如く氣長く事を爲し玉はゞ其中に意外の事もや起りて計畫の外づゝ事もあるぞかし、君よ妾の氣早きを咎ひるなかれ、妾迚も君愛しと思へばてこそ斯くも思惟をならふるぞかし、君の榮達は妾の出世なりなぞ、れろそかに君を思ふべきや、と嬌舌もて口設けども、そこは老獪なる閔の事とて容易にこれに乘るべきや、閔は表面温厚らしき顔に微笑だにたゝへて、温言もて山月よさな悔み玉ひぞ、我とても御身愛とし〻思へばこそ、御身の言はるゝまゝに謀策を廻らし一日も早く愛しき御身を喜ばせばやと思へるも、竟角に時運は來らずして思ひのまゝの事も出來すされど下手に廻りてなまなか他人の嫉妬になるよりもせめては人を犧牲にして我は蔭より甘き利を得ることを賢き人の仕業なれ、我は表面にたちて權勢を張り人に怨まるゝよりも、帷幕にありて之を操縦して利を得ることそよけれと思ふとさしやけば山月の眉はピリ〻と動き心の中には さても言ひ甲斐なき男なるよ、かゝる意氣地なしにいつまで付添よも詮なきことにこそ、うれにつけても允用の君こそ頼母しくも亦利々しけれ、今は彼の君戀ひ玉章もてこれまでのことを詫びしたならばよもや厭やと言はるまじ、元木に發る接木なし弦に出月は筆蹟妻事に日頃の鬱を打晴びて只管舊情を陳めんことを認めやりぬ、奸婦の本性弦に金々發輝して亦々や允用と再び厚く繋るに至りぬ、實にや焼木の火の陽き安く二人の中は前にも增して濃厚なるにすりぬ、二人の中に斯る關係の出來たりことは露知らぬ閔は山月が近頃の擧動にかゝはしと錦付きてはあれ妬のほひら留めがたく種々探りたるに關らざりき、元の允用と相曳せるとは

西の宮と樂の述懷（二十）

◎今度は北海道行

火を落して戸締りをして居るのに何程懇意づくの中だといつてトン〳〵を極めるのも何だか氣の毒に思はれましたのでれ茶屋さんへは寄らずに私の家へ二人共落ち付くことにしましたが時間が時間で着を取りにやる譯にも行かず有合せの佃煮か何かで飲みながら例の相談に掛りましたが追々と酔の廻るにつれ何方からとなく相談に枝が出て縺りがつかずトウ〳〵其の晩は小田原評議で二人共酔倒れて仕舞ひましたが明る朝になり双方氣の納まつた所で那〳〵の斯うの考へた末が兎も角も今暫時此のまゝで……といふ矢ッ張相談をしても同じやうな結果になりましたが併し私が女房への面當に東座の近所に引き越したいといつてヂャ〳〵張りましたので『ソリや却つて喧嘩の種を蒔くやうなもので餘り宜い考でないが……』といつた所で一旦思ひ込んで言ひ出した前の事であるからマアー氣の濟むやうにして見るも宜いだらう』と男の同意で家丈は替へることにしました。

私も斯うなりやア如何せヤだといふので東座の近所も近所本日口と向ひ合せの空家……餘り奇麗でないのを我慢して借り受け軒先に御神燈をブラ下げてやりましたスルト女房が業を煮やして毎日のやうに喧嘩が始まる私はソレを見物してはチットは溜飲を下げて居たのですがトウ〳〵其の女房が心得違ひをして座に掛つてた旅役者と駈落ちをして仕舞ひましたので私はズル〳〵べつたり女房氣取りで以前のやうに東座に入り込む事になりましたスルト其の男が先代の關三十郎を買ひ込んで來てウンといふ程損をして仕舞つて如何にも斯うにも煩返へしがつかなくなつた所からソレを盛り返す爲めに北海道へ行くことになり私も一時別れなければならぬ破目になりました。

往く時の考ではマア二三ケ月といふのでムいましたから私も其の氣で其の男が返る迄には出來る丈ケチに少しなりた金を殘して置かうと一生懸命稼業に身を入れて稼ぎ約束の三ケ月も郷ちましたから今日は歸るか明日は歸るかと毎日着を長くして待つて居りましたが三月はたろか四月經つても歸つて來る模樣はありません此れは何か奥行の都合があつての事だらうと思ひましたが併しソレにしても手紙位は寄越しさうなもんだが……と又ウカ〳〵一月許り過してトウ〳〵五ケ月になりましたが未だ歸りません私もモウ我慢が出來なくなつて稼業を休み北海道へ出掛けるとなしました

鳥渡其所らまで遊びに行くのとは違つて他方から北海道迄の往復と向ふでの滞在を計算して見るとナカ〳〵日數が掛りますから會所へは休みを屆ける我家の仕末をつける極く別懇の家へ暇乞に行く忙はしい思ひをしましてヤッと函館へ着きました（つゞく）

一字千金

◎疊製造業並ニ表替
京城永樂町一丁目（赤門前）
横井疊製造所

花莚疊表廉價販賣
京城長谷川町
東亞興業合資會社

西洋洗濯業確實にて仕事叮嚀
旭町二丁目理事邸裏
伊丹屋

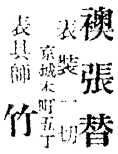
◎日本瓦製造販賣
弊店儀今般左記の所に移轉致し從前の通り營業仕り候間相變らず御愛顧の程伏而奉懇願候
京城古市町（保稅倉庫前）
濱本商店

諸傘並ニ提灯類印入
和洋蠟燭あり
京城明治町二丁目
大島商店

移轉披露
京城外町二丁目八十番戸
理事邸東角上名古屋城の上
佐藤旅館
電話八二八番
並に高等下宿

染物並洗張
迅速叮嚀を旨とし染色鮮麗にして確實なるは本工場の特有なり
龍山元町四丁目（元今村跡）
桑澤工場

西洋洗濯
日仕事
並ニ和服洗張
正確叮嚀
京城長谷川町一丁目出一番戸
有田組


襖張替
表裏一切
京城本町五丁目
長具師　竹堂

日本澤庵
味噌醤油製造
乾物荒物鑵詰
銘茶食料雜貨
京城本町五丁目
漬物問屋　大上商店
（電話二五一番）

諸衙官用御品調達
營業目科
紙類書籍
印刷附屬品
印刷インキ
防腐デシン
穀物食鹽
織物染料
各學校用品調達
東京會社資
アライアンス商會代理店
東京濱横百六番七
ビュームエンドライフ商會代理店
東京
千代田生命保險相互會社代理店
東京
博文館發行書籍特約店
京東
金港堂發行書籍特約店
釜山
臺鹽合資會社食鹽特約店
並ニ委託販賣
藤田合名會社
本社　京城明治町二丁目
出張所　東京　京橋區南鍋町一丁目
電話二三〇番
電話新橋三九六二

西洋料理開業御披露
▲西洋料理　一皿金拾五錢　一杯金五錢
▲アイスクリーム　一杯金五錢
▲カーフー　一杯金五錢
▲チョクレツ　同　拾錢
▲コーヒー　同　金拾錢
▲紅茶　同　五錢
右之通り大々的廉價を以て差上可申候尚此外御好に應ト何品にても調理仕候間何卒陸續御來駕の榮を給はらん事を
京城大和町二丁目二百廿七番戸（本町七丁目横入）
陽氣館

登錄商標

つけて二分間程たてば赤味を帶び白くなる水たしろい
製造本舗　兵庫小物屋町
韓國一手發賣元　京城長谷川町一丁目（電話四百十番）
アイエス商會
定價
金十五錢
金十二錢
取次販賣御申込に應じて其他の化粧品一切販賣仕候

拜啓陳れば各位益々御勇健にて御繁榮の段奉大賀候降拙者今度精白米小賣兼行商を相營候而して向一ケ月は開之店披露としてし左記の直段にて御用命に應じ候間多少に係ず御注文なし被下度偏に御依賴申上候　敬白
尚ほ通信を以て御注文の折は通信料は拙者に於て辨償仕候
旭町一丁目五十二番地
渡邊商店

上等　五斗八圓十錢　一升十六錢五厘
一等　五斗七圓九十錢　一升十六錢

●●驚く可き染色法の進歩●●●
但し仕立たる儘
▲洋服類丸染
▲帽子類改造
弊店儀今般左記の處に於て開店仕最新流行の良染法と工師特得の技術とにより如何なる古物も一見新物と異ならざる樣願る完全に染め直し加之も大々的廉價且つ迅速の調達仕候間何卒贔屓の御用命の程伏て奉願上候　敬白
京城新町三丁目十八番戸（井門樓横入）
京城横濱シライ商會出張所
北山染工場
工師　北山義政
出張員　北谷武之助

●●●如何なる古物も新調同樣になる●●●

公告
本局事務處理の都合により今二十一日以後不動産利用に關する申請を受理せず
隆熙二年六月二十一日
帝室財産整理局

開業御披露
揚弓場
並に他●コーヒー、紅茶●氷水一切●●
京城旭町三丁目
花遊亭

◎蒲燒◎鰻丼
◎鰻昆布卷◎柳川鍋
◎鰻八幡卷◎すし
◎會席御料理
京城壽町一丁目
武藏家

原金旅館
本店　仁川理事廳通（電話三二番）
支店　京城南山町（電話一〇七番）

御會席料理
壹圓
同　七十五錢
同　五十錢
京城本町九丁目
小松亭

開業御披露
ビヤホール
初夏の日影さはやかに清風涼しき兎根山分けて綠蔭の其中に獨り立ちぬるビヤホール佳なる風景と清涼の美味なるは皆樣方の御遊來に叶ふべし
本町九丁目三方よ中央兎根山上
大和町三丁目
新町　浙路り上る
兎茶屋

會席御料理仕出し
京城本町八丁目
富士見樓

和韓洋會席
並に仕出し
御料理
韓洋亭
通大町和軍司令部
電話六三九番

提燈製造張替
諸商店廣告用引札調進
其他印物一切御注文に應ず
京城旭町二丁目（不知火旅館前）
森原商店

●動物園大會●
開會　毎日午前八時ヨリ
場所　西小門內新報社隣
本園は世界の珍らしき鳥獸を蒐集し江湖諸彦の觀覽に供するものにて從來の興行見世物類とは其撰を異にし動物研究の材料として實物教育の一端に資せん目的なれは紳士淑女の方々が令息令孃を同伴せられて一日の消閑を試みらるゝには最恰好なる娯樂場なれは陸續御來園の程奉希上候
◎本會の名譽
一長崎縣知事荒川義太郎氏より感謝狀を贈らる
一各府縣官公私立學校長より有力なる教育參考品として數千通の謝狀及び證明書を有す
一鹿兒島歩兵第四十五聯隊より感謝狀を贈らる
一韓國各駐割軍隊より感謝狀を贈らる
一日韓各學校より感謝狀を贈らる
四十一年六月
六車萬國動物園

一龍山元平式院前軍司令部拾五間道路左側約五千坪
但し五十坪を一區として割貸
右將來多望の地貸附中度候條御希望の御方は左記へ御來談被下度候也
京城明治町一丁目
森村太郎
京城本町二丁目
林田金次郎

統監府御用諸官衙人力車荷物荷造及運搬
伊藤組
本店　京城曙町（電話七三番）
營業　同本町三丁目（電話四〇番）

一各種石炭大販賣
大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
三池粉炭
鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應じ可申候
當社一手販賣炭左之通り
三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦、芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等
ストーブ用として右三柿取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候
三井物產合名會社
京城出張所（電話二十六番）
仁川出張所（電話六十三番）

日本郵船株式會社
仁川瀛船出帆廣告
電話十番
貨物及船客取扱店
京城南大門通
郡回漕會
電話三九番
巴商店
電話三〇六番

●釜山長崎門司神戸行
出東丸　七月五日後時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行
第一オハヨ號　月日後三時出
●大連、大沽、牛莊行
山高砂丸　七月廿三日後一時出
東丸　六月廿三日前五時出
●大連、大沽、牛莊行
酒田丸　七月二日後一時出
●鎮南浦行
第一オハヨー號　後三時出
●釜山出帆、元山清津、浦鹽行
弘前丸　七月一日
御乘船ノ際ハ稅關渡上場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ